

短梢剪定芽キズ・発芽処理講習会（H30）

J A 中野市営農センター

芽キズ・発芽促進処理時のポイント

- ・芽キズを入れる前に、枝の誘引をしておく。
- ・芽キズ・発芽促進処理は芽を出したい所に必ず行う（ただし、枝の先端3芽は不要）
- ・芽キズは芽の前（先端方向）に芽と同じ幅のキズを2mmの深さで入れる。
- ・芽キズは水が枝から垂れてくる前（水上がり前）が効果的。
- ・発芽促進剤処理は水が枝から垂れてきた後（水上がり後）が効果的。

1. 芽キズ処理方法

① 芽キズ時の注意点

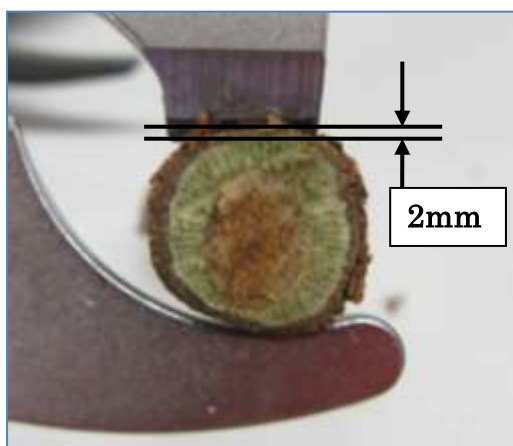
※主枝延長枝は必ず行うこと

- ・前年、枝を伸ばして延長枝としたものは必ず芽キズ処理を行う。
- ・延長枝以外の枝（去年の結果枝等）は基本的に芽キズ入れない。（基本 20 芽以下）
- ・芽キズ処理は枝を誘引した後に行うこと（誘引時に枝が折れる可能性あり）
- ・芽キズを入れる場所は先端 3 芽を除いた全ての芽に入れる。

② 芽キズ処理方法

※芽キズは芽の先端部の方に入れる。（入れる位置に注意）

- ・剪定ばさみや鋸等で、芽の場所から先端部の方向に 2～3mm の位置に、芽の幅で形成層に達する深さのキズを入れる（芽キズは広く浅くという感じで行う。）
- ・処理時は水上がり直前が最も良く、早すぎると効果が劣る。
- ・発芽促進剤を併用する場合は芽キズ処理を先に行う。



2. 発芽促進剤の使用

・発芽促進剤

① CX-10

使用目的：発芽を揃える

使用時期：水上がり直後。（3月下旬～4月上旬）

方法：CX-10を芽に塗布、散布する。

塗布は今年発芽する部分（延長枝）の芽に、ペンキのハケ、スポンジで塗布。

散布は霧吹き・背負動噴等で枝にかかるように散布する（マスク使用）

散布液が余った場合は、芽座周辺にも散布、塗布する。

濃度：20倍2ℓに100ml

注意：石灰窒素と同じ成分なので処理前後は飲酒をしない。

シアナミド剤は有効期間が1年間、使用後は適切に処理する。

CX-10使用時はかぶれる恐れがあるので、手袋、マスクなど皮膚を保護できるものを着用する。

② 液肥メリット青

使用時期：水上がり直前に実施する。芽キズ処理と同時に行うと吸収しやすい。

使用方法：メリット青2倍液（1：1の割合）を芽キズの場所・葉柄痕の塗布

※CX-10使用時のかぶれが気になる方はメリット青を使用。（若干かぶれにくい）

③ 発芽促進剤の使用時期

芽キズ処理後に発芽促進剤を塗布するのが理想。芽キズと発芽促進剤の同時処理、可

3. その他

① 春先の管理について

※休眠期防除※

昨年晩腐・黒とう病発生園は発芽直前にデランフロアブルやベンレート水和剤の散布を実施する。

藁外しは防除開始前（4月上旬）あたりで外す。

② 粗皮削りについて

3月中旬頃～特に昨年カイガラムシやクビアカスカシバが発生した園は必ず実施。

③ 巻きひげやなりかすの切除（晩腐病・黒とう病が多発した園は特に実施する）

④ 種枝の誘引（中梢・長梢はしっかり実施。短梢は主枝をしっかりと固定する）

⑤ 苗木の植え付け（4月中旬 後日講習会実施）